

## 活動報告

福岡県議会は87名の議員で構成され、議員5人以上の会派を中心に議会が運営されています。また、議会の方向性を決めるために正副議長と会派の代表からなる代表者会議が設置されています。



私も副議長の役割を果たす所存です。

福岡県議会は自民党などの会派制で、国会と同様、提案は常任委員会で審議、採決された後、本会議で採決されます。

地方議会の存在意義がよく議論されますが、国会と違い地域住民に近い分、イデオロギー対立より政策論争が主です。

実際、コツコツと政策論議をしている実態はあまり知られていないのではないか？

私が月刊えぐちを発行しているのは、地道な政策論議の発信が第一目的です。



月刊えぐち  
2024夏  
vol. 7



県政報告  
福岡県議会議員 江口よしあき  
自民党福岡県議団

発行／江口よしあき事務所  
〒830-0062 久留米市荒木町白口2324-3  
古賀第2ビル103号  
TEL 0942-26-3324 FAX 0942-26-3382  
Mail: office@eguchi.ne.jp

江口よしあきプロフィール  
1974年 久留米市荒木町に生まれる  
1980年 久留米市立荒木保育園を卒園  
1986年 久留米市立荒木小学校を卒業  
1989年 福岡教育大学附属久留米中学校を卒業  
1992年 松尾学園弘学館高等学校を卒業  
1997年 早稲田大学社会科学部を卒業  
同 年 九州朝日放送 (KBC) に入社  
2003年 久留米市議会議員に初当選(連続2期)  
2011年 福岡県議会議員に初当選(現在4期目)  
**2024年6月 第87代福岡県議会副議長に選出**

■令和6年・福岡県議会日程（予定）

9月定例会 9月5日（木）～10月9日（水）

■傍聴について

県議会の会議は公開を原則としていますので、会議中はいつも傍聴でき、傍聴を希望される方に傍聴券を交付しています。  
最新及び詳細は福岡県議会ホームページで。

## 月刊えぐち VOL. 7

2024年

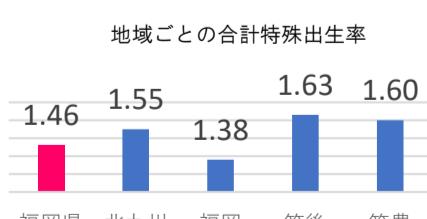
### EPBM推進

福岡県はEPBM推進のため、令和5年度に九州大学との連携事業「出生率の相関分析」の共同研究を行いました。

\*EPBM…「エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング」。データに基づく政策立案

研究では、県内を4地域に分け、合計特殊出生率を年代別出生率や子の順位別出生率に分け、正規従業員数の割合や新規住宅着工戸数、保育所利用児童割合などとの相関関係を調べました。

\*合計特殊出生率…15歳～49歳女性の年代別出生率を合計したもの。



合計特殊出生率は筑後地域が一番高く、福岡地域が一番低い結果となっています。

ここで筑後地域を例にいくつかの指標との相関関係をご紹介します。

筑後地域は正規従業員数割合・新設住宅着工戸数（／千世帯）・小児科医数（／人口1万人）・持ち家世帯率・3世代同居率・共働き世帯の各割合が県平均よりも高くなっています。

| 指標    | 出生率 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 第3子 |
|-------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 正規従業員 | +   |        | +      | +      | +      |        |     |
| 新設住宅  | +   |        | +      | +      | +      |        | +   |
| 小児科医師 | +   |        | +      | +      | +      |        |     |
| 持家世帯率 |     |        |        |        |        |        | +   |
| 3世代同居 |     |        |        |        |        |        | +   |
| 共働き世帯 |     | +      |        |        |        |        | +   |

そういった各指標の高さが合計特殊出生率や各年代別の出生率に寄与しているというのが上記の表です。

筑後地域は「働きやすく、住みやすく、医療が充実し」子育てにプラスに作用している、との分析結果です。

EPBMは、今回で言えば「地域別ではなく、市町村別で」との意見がありさらに深化させる議論が必要です。

## 新型コロナウイルス対策の検証

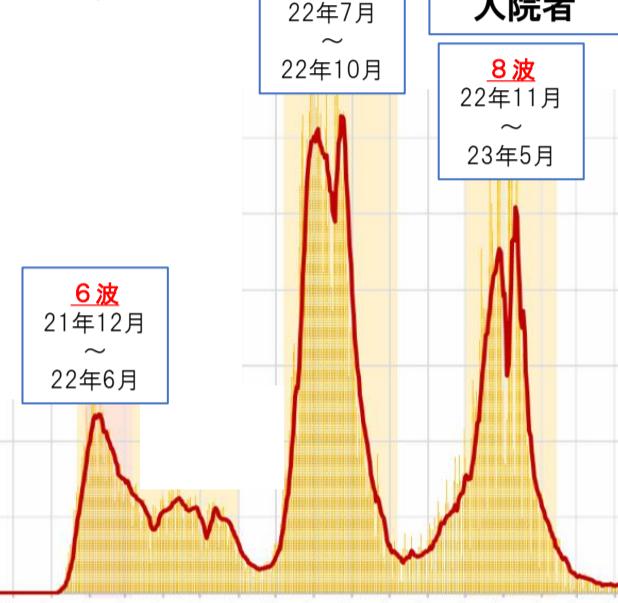
福岡県では今年3月に、2020年1月の福岡県新型コロナウイルス感染症対策本部の設置から、2023年5月の5類感染症移行による対策本部廃止までの「新型コロナウイルス感染症対応の総括と記録」を発表しました。

発生当初は恐ろしい病気、という感覚でしたが、対策の仕方やワクチンなど、人類も対応を積み重ね、逆にウイルス側も強毒性から弱毒性に変化し、同時に、感染力を増大させていったという経緯があります。これらを振り返って今後の新型感染症対策をあらかじめ構築する必要があります。



県は今回の総括で課題を挙げました。  
 ○流行初期に病床・発熱外来・宿泊療養の体制確保に時間を要した  
 ○医療現場でマスク等の供給不足が生じた  
 ○保健所業務がひっ迫した

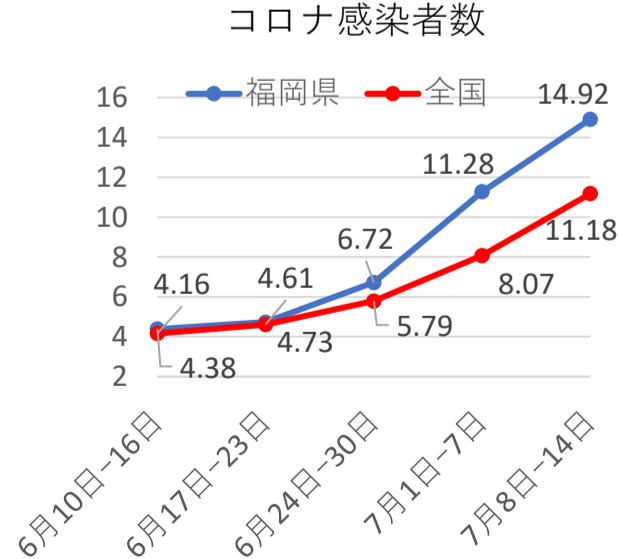
福岡県は保健師等の増員や応援体制の迅速化などを行うこととしました。また、陽性者情報の一元管理や、感染拡大時にはPCR検査や自宅療養者の観察を外部に委託します。「次」に活かす対策です。



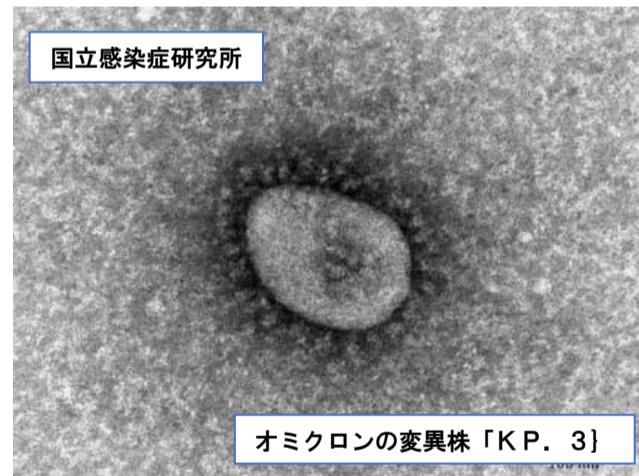
## 新型コロナ感染症の流行期へ

新型コロナウイルスの感染者が増加しています。県によりますと新型コロナウイルスの感染者数は6月上旬ごろから増え始め、その後、急増しました。

増加の主な原因は、感染力が強いオミクロンの新たな変異株「KP.3」によるものと考えられます。



KP.3は従来の変異株と比べワクチン接種や自然感染で得られた免疫をすり抜ける能力が高い、とも言われています。



症状は、咳、のど痛、頭痛、だるさ、下痢、嘔吐、嗅覚・味覚障害など。

患者の咳やくしゃみ、会話時の飛まつの吸い込みなど、これまで幾度となく注意喚起されてきた「飛まつ感染」や「接触感染」に注意が必要です。

感染対策は、これまで同様、手洗い、換気、適切なマスクの着用など。

もしかしたら「コロナ慣れ」による「ゆるみや油断」が最大の敵かもしれません。夏休みで人の移動が多くなります。少しきつめの心構えが必要です。